

令和3年度（令和2年度対象）

南丹市教育委員会
点検・評価報告書

令和3年10月

南丹市教育委員会

本報告書は、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定に基づき、南丹市教育委員会が毎年度示す「南丹市教育の指針」に沿って事務の執行状況について点検・評価したものです。

南丹市教育委員会では、今後も教育環境の整備・充実を図るとともに、ふるさと南丹市を愛し生涯にわたって主体的で心豊かに学び続ける教育の推進に努力してまいります。

南丹市教育委員会

教育委員会委員名簿（令和3年10月現在）

職名	氏名
教育長	木村 義二
教育長職務代理者	高屋 毅史
委員	城戸 貴子
委員	淵上 真奈美
委員	前田 好久

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、原則として毎月1回「教育委員会定例会」を開催し、必要に応じて臨時会を開催いたしました。

■令和2年度開催教育委員会議

- (1) 教育委員会定例会・・・12回
- (2) 教育委員会臨時会・・・4回

2 教育委員会議での審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める職務について、同法第25条及び「南丹市教育委員会教育長事務委任規則」の規定に基づき、令和元年度は合計39件について審議いたしました。

- (1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針・・・14件
- (2) 教育委員会規則等の制定及び改廃・・・・・・・・・・・・・・15件
- (3) 職員（教職員を含む）の人事に関する事・・・・・・・・・・・・10件

3 教育委員会活動

学校・幼稚園等教育施設訪問／令和2年6月、11月 他

4 教育行政事務の取り組み状況に対する点検・評価

南丹市教育委員会事務の点検・評価の実施に関する要綱（平成25年南丹市教育委員会告示第9号）に基づき、下記の要点をもって点検・評価を実施しました。また、教育に関し専門的知見を有する点検・評価アドバイザーからは、事前送付した事務局作成による調書・資料により、8月に書面にて点検・評価に係る意見聴取し、様々な意見や助言をいただきました。意見・助言をいただいた点検・評価アドバイザーは次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属
原 清治	佛教大学 副学長 教育学部 教授
内山 淳子	佛教大学 教育学部 特任准教授
山本 博樹	立命館大学 総合心理学部 教授

(1) 点検・評価の要点並びに構成

① 評価対象

「令和2年度南丹市教育の指針」に基づき実施した教育総務課、学校教育課及び社会教育課に属する事業のうち、重点事項に属する事務事業（26項目）に対して、点検・評価アドバイザーからの意見を聴取しております。

② 成果・課題等

事業の実施に伴い、成果が得られた内容や課題を示しています。

③ 「南丹市総合振興計画実施計画」及び「南丹市教育振興基本計画」との関係

それぞれの計画で定められた10年後の南丹市の姿を目指し実施する事業について、実施年度における教育委員会としての点検・評価事務として位置づけています。

④ 内部評価と総合評価 ※評価判断の基準は下記に記載のとおり

(内部評価) 対象評価項目事務事業を所轄する担当課による評価です。

(総合評価) 内部評価に加え、点検・評価アドバイザーの参照意見を踏まえた教育委員会としての評価です。

※評価判断基準	
A	計画どおり又は計画以上の成果が得られた
B	課題は残しながらも概ね目標は達成できた
C	課題を残し目標も十分達成できなかった
D	検討段階で具体の成果はなかった

⑤ 点検・評価票記載内容等に係る改善点について

本年度実施したアドバイザーからの意見聴取を踏まえ、次年度からの運営に資することとします。

◆令和3年度 南丹市教育委員会主要事務事業一覧&「点検・評価」項目（令和2年度事務事業）◆

令和2年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目	実践の方向性
①重点実践項目	② 実 践 の 方 向 性				
1. 豊かな人間性の育成	「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する	学校教育課	1	(1) 主体的・対話的深い学びの推進事業	地域の特徴を生かした道徳教育の一層の充実 または、中学校へのコミュニティスクールの導入
		学校教育課	2	(2) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業	地域総がかりで児童生徒の道徳性を育む地域道徳の推進
	確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る	学校教育課	3	(3) 情報教育研究事業（ICT教育・プログラミング教育）	ICTを活用した学習の推進
		教育総務課	4	(4) 情報機器整備事業	
	生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる	社会教育課	5	(5) 生涯学習推進事業	生涯学習の機会の拡大と深化または 文化力の掘りおこしと、向上に向けた支援
	0歳から読書で学べる環境を構築する	社会教育課	6	(6) 講座開設事業（図書館）	乳幼児期から読書に親しむ機会の創出
		学校教育課	7	(7) 学校司書等設置事業	読書の機会と環境の拡充
人権が尊重されるまちづくりの推進	学校教育課	8	(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実	人権教育を基盤とした教育の推進	
	社会教育課	9	(2) 人権教育事業（人権教育講座）	生涯学習としての人権学習の取り組み	

令和2年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目	実践の方向性
①重点実践項目	②実践の方向性				
2. 安心して学べる環境の構築	子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える	学校教育課	10	(3) 児童生徒就学支援事業	子どもたちを守るシステムと体制づくり
	学校や生涯学習施設の安全対策を図る	教育総務課	11	(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業	児童生徒が安心して学び、生活する場の計画的な整備
		学校教育課	12	(5) 通学安全対策事業	
		社会教育課	13	(6) 生涯学習施設改修事業	
	生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える	社会教育課	14	(7) 社会体育振興事業	健康安全教育の充実 または 体力・運動能力の向上
3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える	社会教育課	15	(1) 歴史遺産振興事業	地域社会をキャンパスとした学習の充実 または 地域資源に触れる機会の充実
	地域の自然の中で体を使った体験や科学を学べる環境を整える	社会教育課	16	(2) 体験講座開設事業	自然体験活動を通じた学びの再構築とその充実
	市の文化財の魅力の創出と発信を行う	社会教育課	17	(3) 展示会事業	文化博物館・郷土資料館活動の充実
	さまざまな学習機会を創出する	学校教育課	18	(4) 学校給食運営管理事業	食に関する指導の充実
4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	文化芸術を楽しむ環境構築に努める	社会教育課	19	(1) 生涯学習推進事業（文化祭）	文化芸術に親しみ、完成を高められる機会の創出

令和2年度「南丹市教育の指針」		担当課	項目番号	主要事務事業名「点検・評価」項目	実践の方向性
①重点実践項目	② 実 践 の 方 向 性				
5. ダイバーシティ教育の推進	外国語教育や多様な文化の学習を充実させる	学校教育課	20	(1) 外国語教育推進事業 (英語検定補助)	グローバル人材の育成
	ユニバーサルデザイン環境の構築に努める	学校教育課	21	(2) 適応指導教室の運営	適応指導教室の取り組みの充実
	バリアフリー意識の啓発・浸透に努める	学校教育課	22	(3) 心のバリアフリー推進事業	障害に対する正しい理解の促進と切れ目のない支援の充実
6. 自己肯定感・有用感の育成	異年齢で学びや交流の場を広げる	学校教育課	23	(1) 校種間連携推進事業	切れ目のない円滑な指導体制の推進
	地域における子どもの居場所を充実させる	社会教育課	24	(2) 子どものための地域連携事業 (放課後子供教室推進事業)	放課後における安全・安心を配慮した子供の居場所づくりの推進
	子どもが地域社会で活躍できる場を創出する	社会教育課	25	(3) 子どものための地域連携事業 (地域学校協働活動推進事業)	地域連携等による体験活動の充実
	地域人材が学校で活躍できる場を創出する	学校教育課	26	(4) コミュニティ・スクール推進事業	地域学校協働活動の推進

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	1	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 主体的・対話的で深い学びの推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する			
事業目的	新学習指導要領改訂の方向性を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」を推進する実践研究等に取り組み、その成果を共有・展開等することで、これからの時代を生きる子供たちに求められる資質・能力を着実に育むことを目指す。				
事業内容	園部中学校において、南丹教育局指定事業「主体的・対話的で深い学びを実現する研究指定校」及び南丹市教委指定「(保)幼・小・中連携教育研究」を活用し、指導方法・指導体制の工夫や教材の開発、改善や普及のための実践研修に取り組んだ。 校内教科部会の活性化 公開授業の実施 外部講師の講演会の実施			達成指標	
				学校評価において、「学校は授業改善を行い、わかりやすい授業の工夫に努めている」の項目を前年度と比較してポイントを上げる（生徒・保護者）	
成果	昨年度までの国の指定事業を基盤として、引き続き取り組んできたことにより、 1. 生徒の学びに向かう姿勢づくり 2. 教員の指導力の向上 3. 幼保小中連携による深い学びのシステムをより一層進める。 上記の課題について、教員の指導力に深化がみられ、その結果「生徒の学びに向かう姿勢」が確立されてきている。また、(保)幼・小・中連携教育研究事業を推進し、中学校だけでなく小学校・就学前教育との連携と学びの連続性の重要性について認識できた。(保)幼・小への波及効果も大きい。			令和2年度予算額	
				0円	
課題	引き続き、withコロナの視点を大切に、教員指導力の深化と校種間連携の強化・継続推進に取り組む。			達成度	
				平成30年度 56ポイント 令和元年度 65ポイント 令和2年度 65ポイント	
				令和2年度決算額	
				0円	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有		意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	学校教育の質的向上に向けた具体的な取り組みを続けておられ、校種間連携においても実を結んでいると思われる。さらに生徒・保護者の受けとめを継続的に数値化されている点も評価できる。				
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A				

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	2	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(2) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業	担当課	学校教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 「夢」と「志」を持ち、豊かな人間性を備えた人材を育成する。			
事業目的	自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心を育む。 『地域道徳』の取組により、地域社会総がかりで、実際に行動に移すことのできる道徳的实践意欲と態度を子どもたちに育むとともに、地域の教育力向上を目指す。				
事業内容	国の委託事業を活用し、実施する予定であったが、中止となったため、市の単独事業として実施した。南丹市八木町をモデル地域とし南丹市全域で実践研究を進めてきた。 ア. 事業推進協議会、研究推進委員会の設置 イ. スーパーバイザー（大学教授）招聘による講演年3回実施。 ウ. 道徳公開授業並びに事後研究会 エ. 交流報告会の実施			達成指標	
				学校と地域で目指す子ども像を共有し、次年度の学校教育目標に盛り込む。	
成果	・コロナ禍であったが、当初の計画通りに全て実施することができ、地域道徳という未知の分野に、教育界において、教員だけでなく学校関係者（学校運営協議会委員等）にも注目を集めることができた。 ・キックオフ研修会の講演では、多くの教員、地域の方に、道徳に対する見方、考え方に意識改革につながる感動を与えた。 ・中学校においてコミュニティスクール導入初年度であったが、八木中学校では、推進地域の中でも先進的に運営協議会の地域道徳に関する熟議を発展するまでに至った。			令和2年度予算額	
				142,000円	
課題	・八木中ブロック以外の他中学校ブロックでも、熟議等の中で地域道徳を取り上げ、進んでいるブロックもあれば、まだ到達できていないブロックもあり、南丹市全体の足並みが揃っていない。 ・地域道徳に関しては、一定の理解の浸透と取組の進展が見られたが、学校における道徳授業の質的転換までは十分に達成できなかった。地域道徳を切り口としつつも、次年度は、「考え議論する道徳の充実」に一層の力を入れたい。			達成度	
				学校と地域で目指す子ども像を共有することはできた。	
			令和2年度決算額		
			117,476円		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等			
意見内容	「地域道徳」という目標は、価値観が多様化し地域の繋がりが希薄になりつつある現在では、大人にも子どもにも重要な目標であると感じた。コロナ禍の状況にあって、予定された初年度事業を全て実施され、熟議によって作り上げる地域道徳が具体化されたことは大いに評価される。南丹市全体の足並みをそろえる必要があるが、ひとまず一定の成果がみられる。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			
総合評価	A				

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	3	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(3) 情報教育研究事業 (ICT教育・プログラミング教育)		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る		
事業目的	変化する社会を生き抜くためには、基礎的・基本的な知識を身に付けたうえで、効率よく学び、学びを表現するツールとしてICTを十分活用する。 また、プログラミング教育を通して論理的思考力を育成するとともに社会の基盤となるICTを身近なものにとらえ、思考力を養う。			
事業内容	南丹市立小中学校情報教育主任による、「南丹市ICT教育研究委員会」を開催し下記の達成目標を掲げ、研究実践を行った。 1. 授業を通じた効果的な活用についての研究実践の推進（teamsを活用したオンライン授業） 2. 小学校プログラミング教育について（教科書掲載教具の統一） 3. ICT教育効果的指導事例の交流・共有と蓄積 GIGAスクール構想の推進のため、教頭会議・実務担当者研修会を開催し、1人1台環境での新たな学びの実現に向けた研究実践の推進。		達成指標	
			授業研究会を含む「南丹市ICT教育研究委員会」を開催し活用方法を各校へ波及させる。 GIGAスクール構想の推進の校内研修に取り組み、全ての教室で1人1台が効果的に活用されるよう導入を進める。	
成果	新学習指導要領により今年度より実施となった小学校プログラミング教育を学習する「6年理科」の内容について、教材の準備を踏まえ、全小学校で一致して進めることができた。 公開授業を含む研究会・教材講習会の開催（3回：予定含む） GIGAスクール構想を推進する過程において、校園長会議・教頭会議・実務担当者研修会を開催し、1人1台環境でのICTを活用した新しい教育の推進について共有を図った。		令和2年度予算額	
			0円	
課題	GIGAスクール構想による1人1台環境の実現を受け、全ての教室においてICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を進める授業改善の推進		達成度	
			公開授業を含む研究会・教材講習会の開催：3回 校園長会議：3回・教頭会議：2回・実務担当者研修会：2回におけるGIGAスクール構想推進に係るICT利活用に係る研修	
		令和2年度決算額		
		0円		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	これまで力を入れてこられたICT教育の整備を継続し、さらに「主体的・対話的で深い学び」という内容面での深化が見られたことが評価できる。 さまざまな研究会や会議を実施し、一定の効果が見られた。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	4	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 情報機器整備事業		担当課 教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 確かな学力の定着と論理的思考力の育成を図る		
事業目的	教育システムの充実と維持管理を図るため、教育機器の管理と整備を実施する。国が進めるGIGAスクール構想を、新型コロナウイルス感染症による休校措置等のため、計画を前倒しで実施する。			
事業内容	学校教育のICT教育環境の整備と、維持管理を行った。 〔主な業務内容〕 ・GIGAスクール構想に基づき、全学年一人一台のタブレット端末を整備（全児童生徒及び教職員と予備機を含め2510台） ・タブレット端末の充電保管庫の設置 ・教育用タブレットのフィルタリングソフトの整備 ・GIGAスクールサポーターの配置および各校の指導 ・教育用大型提示装置の整備 ・各教室、体育館にアクセスポイントを設置し、校内通信環境を整備 ・家庭学習をする際、Wi-Fi環境が整っていない家庭用にモバイルルータを整備するとともに、Webカメラ等の機器も併せて整備 ・教育用コンピュータ機器等のリース		達成指標	国が進めるGIGAスクール構想を、計画を前倒しで実施する。
			令和2年度予算額	261,157,000円
成果	・タブレット端末を児童生徒だけでなく、教職員にも整備することで全学校体制で取り組むことができた。 ・臨時休校になった場合の対応として、Wi-Fi環境がない家庭にはルーターを貸し出す用意ができた。 ・各教室、体育館にアクセスポイントを設置することで、授業で幅広く活用ができるようになった。 ・GIGAスクールサポーターを他市町に先駆けて配置したことにより、授業への取り入れ方、授業の進め方で各学校の支援ができた。		達成度	令和2年度中に全校にタブレット端末を配置し、周辺環境も整え、3学期から授業で使用することができた。
			令和2年度決算額	260,757,640円
課題	・機器を整備した後の授業への活用、運用、セキュリティについては、引続き学校や学校教育課との連携が必要。 ・ランニングコストの確保 ・計画的な機器の更新と、費用の確保			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	全校にタブレット端末を配置し、3学期には授業で使用できたという点は素晴らしく、他市町村のモデルとなり得る事業であると考えます。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	5	令和2年度重点実践項目	(1) 豊かな人間性の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(5) 生涯学習推進事業（公民館事業・文化祭）	担当課	社会教育課	
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたる学習の機会と自発的な学習への参加を促進させる			
事業目的	いつでも、どこでも、誰もが学べる機会を増やし、学術及び文化に関する各種事業を行い、市民の交流と、教養の向上・健康増進等を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進・生涯学習の推進を目指す。				
事業内容	各社会教育施設等を拠点として地域性を活かしたソフト事業を、次の通り実施。 ・パン作り体験講座（参加者数：6人） ・編物教室（参加者数：延べ40人）		達成指標		
			魅力ある事業を企画し、参加者及び施設利用者を増やす。		
			令和2年度予算額		
		353,000円			
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、年間を通して施設の利用休止や自粛を求めていたため、当初予定していたほとんどの事業について、中止の判断をせざるを得なかった。その中でも、秋以降に講座を実施することができた。		達成度		
			年間延べ参加者数 46人		
			令和2年度決算額		
		142,933円			
課題	内容の充実を図り、様々な年代の方に参加してもらえるような魅力ある講座を企画していくとともに、参加者によるサークル化への移行や、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン開催など、新たな開催方法の模索が必要。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告	
意見内容	今回は多くの事業が中止にせざる得なかったため、評価が難しい部分もある。令和2年度は突然の感染症対策に各社会教育施設においても対応に追われたことと思う。事業の縮小、参加人数の減少は致し方がないと思われる。その中でも市民に向けた広報、オンライン受講のための整備（デジタル格差をなくすためのICT使用方法の指導）を期待したい。				
内部評価	B		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B		A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	6	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(6) 講座開設事業（図書館）		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	オーサービジット事業を主体に様々なアプローチで講座事業を実施することにより、読書意欲の向上を図り、生涯学習の柱の一つである読書活動の推進に寄与する。			
事業内容	・オーサービジット事業 ①講師：岡田 よしたか（絵本作家） 12月5日 一般市民対象 絵本作家岡田よしたかさんの「トーク&読み聞かせライブ」 絵本作家になるまでのお話の後、絵本等の読み聞かせを交えながら、作品の中に出てきた食べ物や歌の話などについてお話しいただいた。 （その他） ・新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、できる範囲でおはなし会や工作会を実施。 ・しおりランチ、ハロウィンしおりの取組により図書館に通うきっかけづくりを行った。		達成指標	様々な企画を各館・室で行うことにより、本に興味を持ってもらい、来館者数、貸出冊数を増やす。
			令和2年度予算額	316,000円
成果	①小さい子どもから大人までみんなが一緒に笑いながらお話や絵本の読み聞かせを楽しむ時間を著者と共有することで、「楽しい」を原点とする読書活動に繋がった。 （その他） 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら小さい子のおはなし会や図書室のつどいを実施することができた。 日吉図書室での「大人の工作会」は1回当たりの参加者数を限定して複数回実施するなど工夫して開催し、多くの方に参加いただくことができた。 しおりランチ、ハロウィンしおりについては来館するたびに食べ物やお菓子のシールがもらえることで通う楽しみにつなげることができた。しおりランチについては大人にも好評で多くの方に楽しんでもらうことができた。		達成度	著者のお話や読み聞かせにより楽しい時間を共有することで作品への親しみを持つことが出来た。工夫を凝らした催しを行う事で来館に繋がった。 年間来館者数：34,663人（昨年比：-39.5%）年間貸出冊数（個人）：89,693冊（昨年比：-17.8%）
			令和2年度決算額	261,264円
課題	新型コロナウイルス感染拡大防止のためイベントを中止しても、別の方法で読書意欲の向上を図る取り組みを実施する体制を整えるよう努める。 多くの児童生徒や市民に参加してもらえるよう定員や回数を増やしたり、広報について、伝わりやすく工夫する。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告	
意見内容	コロナ禍において、来館者、図書の貸し出し冊数が減っていることは致し方ないと思われる。恒例事業であるオーサービジットや「大人の工作会」「しおり」などの取り組みを工夫して実施し、図書に親しむ活動が積極的に行われたことが評価される。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	7	令和2年度重点実践項目	1. 豊かな人間性の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(7) 学校司書等設置事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 0歳から読書で学べる環境を構築する		
事業目的	各校に「ことばの力育成支援員」を配置することで、訪れたい図書館を目指し学校図書館における読書環境の充実を図り、子どもたちが求める図書や学校での調べ学習に必要な資料を整え、子どもたちとコミュニケーションをとりながら読書習慣を定着させ、読書活動の推進を図る。			
事業内容	<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校図書館用図書の選書・購入と配架の工夫。 学校図書館における掲示物の工夫による読書環境の改善と読書意欲の喚起。 令和2年度については、新型コロナへの対応にかかわり、学校図書館における消毒及び児童生徒に対する安全指導が加わる。 <p>【貸出業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒への図書の貸し出し、返却に関する業務。 お勧め図書等、児童生徒への本の紹介と読書の啓発。 <p>【学校教職員との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べる学習等における教職員に対する支援 <p>【子どもの居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し出し業務に付随して、子どもの心に寄り添い、子どもたちに安心できる場所を提供する。 		達成指標	
			図書の貸し出し冊数及び学校図書館来室者数。 学校教職員と連携した授業への協力回数。	
			令和2年度予算額	
		11,675,000円		
成果	<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中にあって、学校の方針とガイドラインに沿った取り組みを進め、学校図書館における安全を確保した。 南丹市立図書館が提供した選書の機会を活用するなど、機会をとらえて学校図書の充実に努めた。 <p>【貸出業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点を基本に、学校図書館の積極的な利用と三密の回避という相反する側面のバランスを取りつつ貸出業務を工夫して取り組むことで、学校図書館の利用の落ち込みを下支えすることができた。 コロナ禍にあっても、本を借りたくなる図書館環境の整備、積極的にお勧め本の紹介や個々の子どものニーズを聞いて個別に図書を紹介するなどして、読書活動を推進することができた。 <p>【児童生徒の居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書を中心にして児童・生徒からの話し相手となり、場合によっては悩みなどを受け止め、児童・生徒の心の安定に寄与することができた。 		達成度	
			新型コロナによる臨時休業及び学校図書館での密を避けるための入館制限等の措置の影響により貸し出し冊数は減少。 学校教職員と連携した授業への協力回数も、長期にわたる休業と失われた授業時数回復の関係で減少。	
			令和2年度決算額	
		10,976,829円		
課題	<p>【新型コロナウイルス感染症に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒の安全の確保。特に三密の回避は学校図書館利用の大きな足かせとなっており、ことばの力育成支援員による努力でカバーできる範疇を超えている部分がある。 学校の実態によって、コロナ禍の中での学校図書館の運営方針に違いがあり、ことばの力育成支援員の中に戸惑いがあった。 <p>【学校教職員等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校にもよるが、ことばの力育成支援員、学校教職員の双方が、相手のアプローチを待っている状況であり、連携には考慮の余地がある。 			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		

意見内容

コロナ禍による学校教育の混乱と同様、学校図書館の運営にも多くの困難があったことと思う。本事業の「成果」と「課題」を見ると、かねてから設置されている学校司書「ことばの力育成指導員」も安全な図書環境の確保と推進活動の両立に戸惑われたことが分かる。理想論ではあるが、学習が制限された子どもたちに図書の魅力を伝えていただける機会であるとも考える。たとえば、オンラインやお便りによる、育成指導員や教職員によるおすすめ本のレビューや、テーマ特集本の「広報」企画など。

また、教職員との連携はもちろん、各学校の指導員同士の連携も心強いと思われ、市内学校共通の企画や資料の共有も機動力があるかもしれない。「成果」には下支えや個別ニーズへの対応が為されたとありますので、十分に行われたことと思います。

内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	8	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 生徒指導の3機能を生かした指導の充実		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性			
		人権が尊重されるまちづくりの推進			
事業目的	いじめや不登校の未然防止と解決のため、児童生徒の自己存在感・有用感を高め、共感的人間関係を育み、自己決定を大切にしたい組織的な指導の充実を目指す。				
事業内容	南丹市小・中学校生徒指導主任会議を2回実施し、いじめや不登校の原因や背景など児童生徒理解を深め、組織的に対応する研修を行う。また、南丹市いじめ防止等対策委員会を2回開催し、いじめに関する取組について助言をいただき、各校の取組に生かす。			達成指標	
				生徒指導の3機能を生かした組織的な指導の充実を図り、いじめの解消率の向上及び不登校児童生徒の出現率を減少させる。	
				令和2年度予算額	
				167,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・6月25日にSSWを講師に事例を通した指導の研修、1月26日に不登校児童生徒支援について研修を2回実施し、指導方法について理解を深め各学校に波及できた。 ・南丹市いじめ防止等対策委員会を2回開催し、教育委員会や学校の取組に対する委員からの助言を生かし、学校現場等にフィードバックすることで、各校のいじめの未然防止等の取組に生かすことができた。 			達成度	
				いじめの解消率は、現在調査中だが、前年と同様の解消率が見込まれる。不登校児童生徒の出現率は、0.3%減少した。	
				令和2年度決算額	
				75,517円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに対しては組織的に対応できているが、不登校児童生徒支援については、児童生徒の理解や組織的な対応について改善が必要である。 ・学校生活全体の指導において、生徒指導の3機能を活かした指導の研修が必要である。 				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	<p>南丹市のいじめ対策には実績があり、SSWを講師とした研修や学校現場へのフィードバック等、信頼のおける組織的な取り組みが行われている。</p> <p>より一層子どもたちの内面に迫り、いじめや不登校を未然に防ぐ方策が期待される。</p> <p>不登校児童生徒の出現率はコロナ禍の状況にもかかわらず減少しており、社会不安の中で学校が子どもたちの拠り所になっている様子がうかがえる。</p>				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	9	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 人権教育事業（人権教育講座）		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性		
		人権が尊重されるまちづくりの推進		
事業目的	人権に関する学習機会を提供し、市民の人権意識の高揚を図ることを目的とし実施。			
事業内容	例年、年3回実施していた人権教育講座は、新型コロナウイルス感染症予防のため年間を通して施設の利用休止や自粛を求めていたため中止。 第1講…講演会（中止） 第2講…映画上映（中止） 第3講…令和3年1月30日（土）八木市民センター 土田 光子さんの講演会を計画していたが中止。		達成指標	
			参加者を増やし、人権に関する知識を深める。	
			令和2年度予算額	
			145,000円	
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、不特定多数が集まる人権教育講座について中止の判断をせざるを得なかった。		達成度	
			年3回全ての講座を中止としたため、人権に関して学習する機会を提供することが難しかった。	
			令和2年度決算額	
			16,933円	
課題	人権学習を意欲的に取り組んでもらえるように内容の充実を図り、幅広い世代の方々に参加してもらえるような機会を作るとともに、新型コロナウイルス感染症予防のため、オンライン開催やテレビ放送など新たな開催方法を検討していくことが必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告書
意見内容	恒例の人権教育講座がコロナウイルス感染予防から中止されたことはやむを得ない。今後の事態に備えて、新しい方法を準備することは重要と考える。内容としては道徳、熟議の重要テーマでもあるため、身近な問題を自然にふりかえることができるようなアプローチの開発が望まれる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	10	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築		
点検・評価対象とする事務事業		(3) 児童生徒就学支援事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 子どもを地域社会総がかりで守る仕組みを整える			
事業目的	経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し、就学に必要な援助を行う。				
事業内容	市内在住であり、市内の小・中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して学用品費や学校給食費などの援助を行う。 経済的に就学が困難な家庭が適切に漏れなく援助が受けられるように、計画的に制度の周知を図る。 学校管理下で発生した児童生徒の不慮の災害に備える制度であるスポーツ振興センター掛金の補助を行う。 高等学校等進学に係る修学支援制度の周知を図る			達成指標	
				指標提示困難事業 制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回	
			令和2年度予算額		
			27,657,000円		
成果	すべての児童生徒に対し教育機会を均等に提供できるよう、経済的な理由により就学が困難な家庭の保護者に対し就学援助費の助成を行い、経済的負担を軽減し就学を支援した。また、特別支援教育就学奨励費の助成を行い、特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減した。 新入学学用品費支給時期の前倒しを行い、小中学校入学前の経済的負担を軽減した。 国の補助単価の見直しにあわせて、支給額の増額を行った。 【参考】要保護・準要保護就学援助率：H30…13.45%、R1…13.76%、R2…13.66%			達成度	
				指標提示困難事業 制度周知 ①全校あてチラシ配布1回 ②新入学児あてチラシ配布1回	
			令和2年度決算額		
			27,574,501円		
課題	真に必要としている世帯が援助を受けることができるよう、引き続き制度の周知について改善を検討する必要がある。 学校給食費の滞納徴収に係る臨戸訪問時に、納付交渉をしながら生活困窮による滞納かどうかを見極め、制度の周知を行った。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	支援の必要な児童・生徒、家庭に対して、きめ細やかな取り組みが実施されている。必要とされる支援が的確に届くよう、周知は重要であると考えます。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体的な成果はなかった）			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	11	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築		
点検・評価対象とする事務事業		(4) 長寿命化計画、安全・安心な学校教育環境整備事業		担当課	教育総務課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る			
事業目的	児童・生徒が安心して学校生活を送れるよう、計画的に施設の老朽化対策を実施し長寿命化を図ることで、安全かつ快適な教育環境の整備を進める。				
事業内容	昨年度繰越となった八木西小学校及び八木東小学校のプール改築工事を実施した。 昨年度設計委託した園部小学校体育館大規模改修工事及び小・中学校特別教室空調設備整備工事の実施。 〔主な業務内容〕 ・園部小学校体育館大規模改修工事監理業務 ・小・中学校特別教室等空調設備整備工事監理業務 〔主な工事内容〕 ・八木西小学校プール改築工事 ・八木東小学校プール改築工事 ・園部小学校体育館大規模改修工事 ・小・中学校特別教室等空調設備整備工事		達成指標		
			安全で快適な教育環境をつくるため、工事設計や工事を行う。		
			令和2年度予算額		
			374,374,000円		
成果	昨年度繰越となった八木西小学校プール改築工事及び八木東小学校プール改築工事については、令和2年7月の完成。 計画に基づき、園部小学校体育館大規模改修工事及び小学校特別教室空調設備整備工事を実施することができ、安全で快適な教育施設の整備を進めることができた。 ・今後予定されている、八木西小学校駐車場整備工事の設計ができた。		達成度		
			教育施設長寿命化計画（10か年計画）を策定することができた。当初計画した設計業務及び工事を実施することにより、安全・安心な学校施設の整備を進めることができた。		
			令和2年度決算額		
			368,962,760円		
課題	教育施設長寿命化計画に基づき施設整備を進めるためには、施設の状況を的確に把握し、国の財源を探り、学校や企画財政課などとの連携を図りながら施設長寿命化計画の推進体制を充実させることが必要となる。				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	計画に基づいて改築工事（プールや体育館）、設備工事（特別教室の空調など）、設計が順調に行われている。				
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A				

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	12	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(5) 通学安全対策事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性		
		学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	通学バス及びJRの定期券、中学校自転車通学費及び自転車通学用ヘルメット購入費補助、スクールバスの運行、交通安全対策グッズの配布並びに通学路危険箇所安全対策の調整等を行い、南丹市立小・中学校児童生徒が安全安心に通学できる環境を整える。			
事業内容	○園部・八木・美山管内の小中学校で遠距離通学となる児童について、スクールバスを運行し遠距離通学の負担を軽減するとともに安全を確保する。 ○幼稚園児及び小・中学校児童生徒の通園・通学時の安全対策として以下の支給。 （幼稚園新入園児）交通安全帽子 （小学校新1年生）交通安全帽子・防犯ブザー・安全鈴 （中学校新入生の自転車通学者）ヘルメット購入補助金 ○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車（6km以上）を利用する者に対して以下のとおり補助を行う。 ・バス・JRを利用する生徒へ定期券を現物給付 ・自転車通学者へは、年額10,000円の補助金を交付 ○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策の調整		達成指標	
			達成指標提示困難事業 通学における交通事故発生数ゼロ。 各種補助事業の実施 通学路危険箇所安全対策進捗確認	
			令和2年度予算額	
			142,642,000円	
成果	○園部・八木・美山管内の小中学校で遠距離通学となる児童について、スクールバスを安全に運行することができた。また、今年度はコロナ感染症対策として、ピストン運行等を実施した。 ○幼稚園児及び小・中学校児童生徒の通園・通学時の安全対策として以下の支給することができた。 （幼稚園新入園児）交通安全帽子 （小学校新1年生）交通安全帽子・防犯ブザー・安全鈴 （中学校新入生の自転車通学者）ヘルメット購入補助金 ○南丹市立中学校に通学する生徒のうち、遠距離の通学が必要で、路線バス・JR・自転車（6km以上）を利用する者に対して以下のとおり補助を行うことができた。 ・バス・JRを利用する生徒への定期券の現物給付 ・自転車通学者へ、年額10,000円（夏季のみは5,000円）の補助金の交付 ○通学路交通安全プログラムに基づいた通学路危険箇所安全対策の調整を実施できた。		達成度	
			達成指標提示困難事業 各種補助事業を滞りなく実施できた。 通学路危険箇所安全対策については、常に進捗を確認し、他の関係機関との連携及び推進会議を実施することができた。	
			令和2年度決算額	
			139,784,074円	
課題	通学時の交通事故が5件（うち1週間以内のケガ2件、2週間のケガ2件、3週間のケガ1件）発生した。通学路の危険箇所のハード的な改善は、各機関が限りある予算の中、順次整備している。施設整備で対応できないところは学校等から交通安全指導を実施しているが、5件もの交通事故が発生した。今後も一層、児童生徒自身がしっかりと危険性を認識できるよう交通安全の指導が必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等		

意見
内容

通学は子どもたちの学校生活において必要不可欠な事項である。令和2年度は通学上の安全対策、交通機関、発生した事故に対して適切な支援が行われている。コロナ禍においてスクールバス運行の調整にも尽力されたことと推測される。
学校の統合により通学圏が広がった地域もあると思われ、今後は子どもたちが通学圏の交通状況を理解し事故を未然に防ぐ交通安全教育の徹底や、学区の地形を確認するマップ作りなどの方法も必要であると思われる。

内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）
総合評価	B	

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	13	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(6) 生涯学習施設改修事業		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 学校や生涯学習施設の安全対策を図る		
事業目的	耐震強度不足が判明した園部文化会館（旧称：園部公民館）と八木公民館への対応として、平成28年度の市総合教育会議の決定に基づき、園部は耐震補強・長寿命化を目的とした大規模改修、八木は機能移転して閉館となった公民館の解体を計画的に行うことで生涯学習環境の整備を図る。			
事業内容	園部文化会館の耐震補強と長寿命化を目的とした大規模改修工事及び大ホール棟の増築工事等		達成指標	
	令和2年3月末に閉館した八木公民館の解体等工事の実施設業務		園部文化会館の大規模改修及び令和3年度からの供用開始 八木公民館解体等工事の設計図書	
		令和2年度予算額		1,139,017,000円
成果	園部文化会館の大規模改修工事の完了（耐震補強・長寿命化） （主な内容：耐震補強、空調設備の更新、トイレ洋式化、大研修室及び録音室の防音改修、練習室の空調整備、大ホール設備一新） 大ホール棟の増築（191.72㎡）及び機材購入 既存駐車場に屋根付き駐輪場（18.2㎡）の整備 第二・第三駐車場の整備（第二：10台、第三：25台）		達成度	
	八木公民館解体等工事の設計図書の作成		（園部）令和2年度中に改修工事は完了し、令和3年5月11日から「供用を開始することができた。 （八木）設計図書の作成完了	
		令和2年度決算額		1,137,970,500円
課題	<p>（園部）令和元年度に条例改正（令和2年度施行）を行い、「南丹市園部文化会館」に名称変更することで、社会教育法の制約を受けない「公民館類似施設」とし、更なる施設稼働率と使用料収入の増加を図るために、積極的なPRが必要であるが、新型コロナウイルス感染症に伴い、施設の安全面の確保と稼働率の向上を両立する必要がある。</p> <p>（八木）閉館した公民館を解体し、駐車場に整備することで、機能移転した八木市民センター利用者の利便性向上を図っていくが、アスベストが含有している施設のため、費用面・安全面に配慮して進める必要がある。</p>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	（園部）工事の竣工図面・完成写真・備品の納品写真 （八木）解体後の駐車場図	
意見内容	園部文化会館、八木市民センターの機能向上が計画的に行われた。施設の多面的利用の観点から、社会教育法による公民館の規定からは外れることになったが、引き続き社会教育課が所管し教育施設としての指導を受けることは、市民が享受できる教育保障の点で安心できる。「課題」にあるように、より広くPRを行い、研修室・大ホールなどの有効活用を図ることが期待される。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	14	令和2年度重点実践項目	2. 安心して学べる環境の構築	
点検・評価対象とする事務事業		(7) 社会体育振興事業・青少年スポーツ育成事業	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 生涯にわたって誰もがスポーツを楽しみ、文化に親しめる仕組みを整える		
事業目的	年齢・体力や目的に応じ、「誰もが・いつでも・どこでも・身近に・いつまでも」スポーツに親しめる生涯スポーツの推進を図ることで、市民ひとりひとりが、健康でいきいきと元気な生活を送ると同時に、地域社会の絆の深まりを創りあげる。			
事業内容	①南丹市スポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、競技力の向上と普及活動を図る。また、総合型スポーツクラブにおいては、地域スポーツの推進を図る。 ②スポーツ少年団だより「なんすぼジュニア」の発行とスポーツ少年団の指導者や保護者、スポーツ推進委員による講習会を実施する。		達成指標	京都丹波トライアスロンでボランティアスタッフを募り「観る・支える」スポーツの支援を図る。府民総体全競技に参加し、総合順位15位以内を目指す。スポーツ少年団指導者の質の向上を図る
			令和2年度予算額	553,000円
成果	①京都丹波トライアスロンについては新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、今後もスポーツ協会やスポーツ少年団と連携し、ボランティアスタッフとして、市民が大会を支える側として競技に触れあう機会を設けたい。また、府民総体についても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から南丹市として出場を見送った。 ②「なんすぼジュニア」を発行し、南丹市で活動するスポーツ少年団の紹介をすることができた。また、スポーツ少年団、スポーツ推進委員で「幼少期におけるアクティブ・チャイルド・プログラム」について講習会を実施することができた。 ③常に施設の点検を行い、安全確保を図ることができた。		達成度	スポーツ少年団の指導者及び保護者を対象にアクティブ・チャイルド・プログラムの講習会を開催した。
			令和2年度決算額	259,816円
課題	スポーツに関わりのない市民へのアプローチを工夫し、スポーツを身近に感じ関わりを持ってもらえるよう取り組みを推進する。 幼少期から遊びの中に運動の基礎となる動きを取り入れ、様々な経験ができる場を子どもたちに提供し、スポーツの好きな子どもを育てることが必要。 施設の老朽化による不具合や機械の故障などの事象が多くみられる。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告 南丹市スポーツ推進計画
意見内容	コロナウイルス感染症の影響を受け、行事が中止されたはやむを得ない。「なんすぼジュニア」の発行など、スポーツが幼少年の健全育成に寄与することを示す事業はスポーツの魅力を発信することであり、活動する児童生徒の励みにもなるため継続していただきたい。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	15	令和2年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 講座開設事業（地域学芸員養成講座ほか）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域資源（重要文化財や歴史資産）を学べる環境を整える		
事業目的	森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会が主体となって地域の歴史・文化を学び観光ボランティアとして地域学芸員を要請する講座を開設する。具体的には住民一人ひとりが学芸員を目指してフィールドワークも交えて文献や遺物はもちろん、行事、祭礼、芸能、芸術、民話などさまざまな形で今に残る有形・無形のモノ（資料）から地域の歴史を学び、地域の観光ボランティアとして活躍できる学芸員を養成する。そのために、市教育委員会に参画の要請があり、文化財保護担当者がスタッフとして講座開設に携わる。			
事業内容	令和2年度は「明智光秀と南丹ゆかりの地」をテーマに、大学講師や歴史研究者などを招聘し、専門的な講義とフィールドワークを行う。実施講座数：全10回（6日間） ・第1回（10/25）「細川氏と丹波支配」「三好政権と丹波」 ・第2回（10/28）「丹波守護代 内藤宗勝の発給文書と権力」 「光瑞寺文書からみる丹波」 ・第3回（11/5）「丹波の中世城館」「奥丹波、荻野直正と黒井城」 ・第4回（11/15）「光秀「なんたん」ゆかりの地めぐり」 「南丹市立文化博物館秋季特別展 八木城と内藤氏展示 説明会」 ・第5回（12/6）「丹波八木城にせまる」 ・第6回（12/20）「丹波内藤氏とジョアン・八木城について」		達成指標	
			南丹市の文化遺産を活用した新たな経済活動の創生を目指すため、観光ボランティア（地域学芸員）20人以上を養成する。	
成果	令和2年10月から地域学芸員養成講座を開講し、全6回、10講座の延べ受講者は、236人であった。全講座受講者27人に修了書を交付した。養成講座の講師となった大学教授や専門家から、南丹市内に現存する文化遺産は全国的に貴重な資料が多く、後世に守り伝える取り組みを継続して欲しいと助言を得た。		令和2年度予算額	
			0円	
課題	5年計画である本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2年目である本年は受講生が減少した。新しい生活様式の中、受講生を獲得していく手段の検討が必要。また、地域学芸員を5年間かけて養成した後の取り組み内容をどのような形で継承し発展させていくかが課題である。		達成度	
			全講座受講者数27人	
				令和2年度決算額
				0円
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告	
意見内容	森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会との協働事業ではあるが、内容は南丹市の地域歴史資産を再確認する有意義な社会教育事業である。事業のPRが重要と思われる。さらに継続的な取り組みとなるよう、今回養成された27名の「地域学芸員」の活躍の場を学校教育の中に設けるなど、全市民を巻き込んだ活動につなげていける事業であると感じている。専門的な内容であるため受講生が固定的にならないことが望まれ、中高生の参加（学校への募集）の意義もあるのではないだろうか。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	B	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	16	令和2年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 体験講座開設事業（博物館、郷土資料館）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域の自然の中で体を使った体験や科学を学べる環境を整える		
事業目的	「食」や「遊び」などの切り口から歴史や文化に親しむきっかけを提供することを目的に開催する。また、見聞きするだけでは体験できない喜びや達成感を他の参加者とともに感じる内容とする。体験講座を通じて、現在の暮らしを振り返り、参加者自らの生活を考える契機を提供する。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館 6月21日 朴葉ご飯づくり ←新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止 11月22日 白みそづくり ←同上により中止 12月20日 注連縄づくり ←同上により中止 ・府民の森ひよし「新緑祭」関連イベント 5月4日 つくって遊ぼう ←同上により中止 5月5日 もちつき大会 ←同上により中止 紙飛行機飛ばし大会 ←同上により中止 		達成指標	
			移築民家を活用した新規事業を1講座以上は開催する。	
		令和2年度予算額		
		59,000円		
成果	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のためすべての事業が中止となった。特に、府民の森ひよしと連携して開催する「新緑祭」は毎年多くの利用者で賑わうため、屋外で実施する「紙飛行機飛ばし大会」は最終段階まで実施の方向で検討をしたが、府民の森が中止という決定に言うこととなった。		達成度	
			新型コロナウイルス感染症拡散防止対策のため、事業を実施することができなかった。	
		令和2年度決算額		
		52,252円		
課題	ワクチン接種が進み、新型コロナウイルス感染症感染の抑制が期待されているが、感染症対策を実施しながら事業を実施していく必要がある。また、郷土食講座の参加者は一定の参加者があるが、新規の参加を求めるためには新しい事業展開も必要である。他の団体との連携事業も視野に入れた幅広い活動を実施したい。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
		令和2年度社会教育事業報告		
意見内容	当該年度の多くの事業と同様にコロナウイルスの影響を受けて「紙飛行機飛ばし大会」など人気事業が中止されたことは残念であった。食や遊びなど、新型コロナウイルスの影響を受けやすい事業なので、事業の継続が難しい事業であり、課題に指摘されている通り、他の団体との連携事業などが必要かもしれない。			
内部評価	B			
総合評価	B			
<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた）</p> <p>B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた）</p> <p>C（課題を残し、目標も充分達成できなかった）</p> <p>D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）</p>				

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	17	令和2年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		展示会事業 (八木城と内藤氏、日吉ダムのあゆみ)		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 市の文化財の魅力の創出と発信を行う		
事業目的	南丹市にまつわる歴史的・文化的な資料を中心に紹介する展示会を開催することにより、市民の学習意欲を刺激し、生涯にわたっての学習の機会を提供する。また、地域をより深く知ることにより、郷土への愛着心を醸成する。			
事業内容	秋季展は「八木城と内藤氏」を文化博物館、冬季展は「日吉ダムのあゆみ」を郷土資料館でそれぞれ開催した。特に令和2年は、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」放映に係り丹波にゆかりのある明智光秀の生涯が描かれた。丹波地域でもさまざまな催しが開催されるなか、文化博物館では光秀が来る時代の南丹市域の様子を八木城を中心に紹介した。館独自の野外見学会、ギャラリートークなどを実施したほか、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行員会とも連携し、各種講座、シンポジウム等の連携事業も展開した。また、郷土資料館では開館20周年を記念してメインテーマである日吉ダムに焦点をあてた展示会を開催した。		達成指標	文化博物館秋季展入館者、700人以上。郷土資料館開館20周年記念展、400人以上。
			令和2年度予算額	5,168,000円
成果	・秋季特別展「八木城と内藤氏～戦国争乱の丹波～」 期間：令和2年10月24日～12月6日 開館日数：38日 展示点数：約80点 入館者数：833人 関連事業：11/14 野外見学会（八木城登山）（12人）、11/22 展示解説会（15人） 製作物等：展示会図録、複製資料等 ・開館20周年記念特別展「日吉ダムのあゆみ」 期間：令和3年1月19日～3月21日 開館日数：52日 展示点数：100点 入館者数：322人 製作物等：展示会図録		達成度	文化博物館秋季展では、周辺自治体との連動事業を展開した成果もあり、多くの来館者を迎えることができた。郷土資料館については、冬季開催事業であったものの「日吉ダム」というメインテーマの展示会を考えれば、もう少し入館者数増が望まれた。
			令和2年度決算額	4,825,256円
課題	文化博物館秋季展については、市役所内にプロジェクトチームをつくり横のつながりを持ちながら事業を展開する予定であった。しかし、コロナウイルス感染症等の影響で立ち消えとなり、実行委員会との連携事業に止まった。このため市全体としての気運醸成には至らなかった。ただ、来館者や講演会等参加者の満足度は高く、周辺自治体が開催していた事業とも連動していたため好評を博した。郷土資料館の日吉ダムのあゆみ展については、冬季開催ということはあるが、来館者数が伸びなかった。水没地域移転者の世代交代が進み、ダム建設に係る移転問題の関心が薄れている感が否めない。今後の展開として、事業を一過性のものにせず、継続することにより南丹市の歴史文化として確立する取り組みが必要である。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告	
意見内容	例年充実した展示が行われる文化博物館の事業であるが、本年度も当市の歴史文化にとって重要な展示会が行われ、多くの来館者を迎えた。企画展の実施に際して市役所内でプロジェクトチームが組まれたことは、今後の博物館社会教育事業の展開に大きな進展があったと思われる。南丹市の歴史文化をとりあげた継続的なテーマを据えることで、全庁の協力もより得られやすいと思われる。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	18	令和2年度重点実践項目	3. 「地域を学ぶ、地域で学ぶ」環境の創出	
点検・評価対象とする事務事業		(4) 学校給食運営管理事業		担当課 学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 さまざまな学習機会を創出する		
事業目的	児童生徒の心身の健全な発達及び食育の推進を図るため、栄養価はもとよりバランスの取れた献立による安全安心な学校給食を提供する。 地域で活躍する人、地域の食や食材、地域社会を支える仕組みなど、地域社会で受け継がれてきたことや、地域を支えてきた「人・もの・こと」を広め、発展・継続していくような様々な学習機会を創出する。			
事業内容	<p>(食育推進) 給食食材の地産地消に努め、地域・家庭・学校・給食調理場が連携し、行事食などを給食に取り入れる。食に関する感謝の心を育成するなど食育を通じて正しい食の在り方を指導する。</p> <p>(事故防止) 多様化する食物アレルギーや食中毒による事故防止を徹底し、食物アレルギーを持つ児童生徒への適切な対応や衛生管理の徹底に努める。</p> <p>(会計運営) 学校給食会計の健全な運営のため、食材の適切な購入及び給食単価との調整を図る。給食費の徴収あたっては、滞納が発生しないよう適切な徴収管理に努める。</p> <p>(施設管理) 日々の学校給食調理業務が支障なく継続できるよう、市内四つの学校給食共同調理場の施設及び設備の適切な運営管理、計画的な維持修繕を行う。調理業務は調理場によって委託と直営とに分かれているが、引き続き効率的な運営管理の検討を行う。</p>		達成指標	
			<p>南丹市給食指導年間計画に基づき、学校給食を通じた食に関する指導を行う。</p> <p>食中毒等の事故発生ゼロ。</p> <p>学校給食費の徴収率98%以上。</p> <p>施設管理不備による給食停止ゼロ。</p>	
成果	<p>(食育推進) 4月・5月については新型コロナウイルス感染症対策のため学校が臨時休業となり給食も実施しなかったが、その後は、給食指導年間計画に基づき給食が実施できた。一汁二菜を基本とし、行事食等を通して各校の実情実態に応じた食育の取り組みができた。</p> <p>(事故防止) 衛生管理を徹底し、食中毒等の事故は無かった。</p> <p>(会計運営) 令和2年度は旧町間で異なっていた給食費単価の統一を行った。食材は給食費単価に見合った適切な購入ができた。給食費保護者負担金は積極的に滞納徴収を行い、滞納額は1世帯22,620円のみであった。</p> <p>(施設管理) 例年の点検管理は滞りなく実施し適切な管理運営が行えた。計画していた修繕・更新の外、急な故障等に対応し適切な運営管理が実施できた。</p>		達成度	
			<p>「令和2年度 南丹市『食に関する指導』年間計画」に沿った学校給食を実施した。</p> <p>食中毒等の事故発生ゼロ。</p> <p>学校給食費の徴収率99.98%。</p> <p>施設管理不備による給食停止ゼロ。</p>	
課題	<p>食物アレルギーや食中毒による事故は無いが、調理器具の一部が混入する事故が発生した。さらなる調理場の衛生管理を徹底し、異物混入事故の防止を図る。</p> <p>調理場における設備の故障が多い。とくに園部・八木は施設・設備とも老朽化により故障や修繕案件が頻発している。施設修繕や設備更新については多額の経費が必要となるため、今後の施設運営管理について詳細な検討が必要である。</p> <p>日吉・美山の調理業務は直営であるが、調理員の人員管理確保が難しい。</p> <p>地元の農業従事者が減少していく中であるが、地産地消を基本とした給食の実施を継続的に進めていきたい。</p>			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等	
意見内容	地産地消の給食は南丹市の大きなメリットであり、ぜひ継続してもらいたい。ただ、施設の老朽化は早期に取り組まなければならないため、なるべく早い時期に修繕する必要がある。			
内部評価	B	<p>※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。</p> <p>※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。</p> <p>※評価の判断基準は下記のとおり</p> <p>A (計画どおり又は計画以上の成果が得られた)</p> <p>B (課題は残しながらも概ね目標は達成できた)</p> <p>C (課題を残し、目標も充分達成できなかった)</p> <p>D (検討段階に止まり具体の成果はなかった)</p>		
総合評価	B			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	19	令和2年度重点実践項目	4. 文化芸術の継承・発展による文化の向上	
点検・評価対象とする事務事業		(1) 生涯学習推進事業（文化祭・文化鑑賞）	担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 文化芸術を楽しめる環境構築に努める		
事業目的	社会教育施設、特にホール施設を活用して、文化協会等の各種団体と連携しながら、市民が文化芸術に触れる機会を設けて、地域文化力の向上を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各町文化協会との共催で文化祭（ステージ発表・作品展示） ・市内の音楽団体が一堂に会するなんたん音楽フェスティバルの開催 ・子ども対象のアニメ上映会 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全て中止		達成指標	
			魅力ある事業を企画し、参加者及び来場者を増やす。	
			令和2年度予算額	
成果	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、年間を通して施設の利用休止や自粛を求めているため、当初予定していたほとんどの事業について、中止の判断をせざるを得なかった。		達成度	
			全て中止	
			令和2年度決算額	
		34,000円		
		33,660円		
課題	安全面の確保を最優先で考えながらも、市民が文化芸術に触れる機会を少しでも増やすために、「新しい生活様式」を基本としつつ、オンラインなどを活用した新たな開催方法の模索が必要。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育事業報告	
意見内容	文化事業についてはすべて中止となってしまったため、評価が厳しいのは理解できる。ただ、文化芸術の継承という観点から、できる限り次世代に引き継ぐために課題にあるようなオンラインを活用した新たな開催方法を検討してほしい。			
内部評価	C	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	C			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	20	令和2年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 外国語教育推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 外国語教育や多様な文化の学習を充実させる			
事業目的	外国語教育では、外国語の習得だけでなくコミュニケーションを図る能力を高めながら、国内外文化的多様性や相互理解の充実を図る。 新学習指導要領に対応した教育内容を確実に浸透させる。				
事業内容	ALTの配置 総時間 1,085時間 英検受験(補助対象)人数 162名 小学校教員英語研修(各校任意の自主公開授業研究会を実施) 中学校英語科教員研修(年1回実施) 外国人講師を招くなど、外国文化に触れる機会を設定し、学ぶ動機づくりを市内各校で進める			達成指標	
				外国人講師とのコミュニケーション回数を設定し、異文化理解への意欲を高め、英検受験(補助対象)者を昨年度より増やす	
				令和2年度予算額	
		4,116,000円			
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であったが、園部小学校で11月27日に小学校教員英語研修が実施でき、亀岡市からの教員の参加もあり、小学校英語教育のモデルを確立することができた。 ・中学校英語研修では、新学習指導要領と教科書会社の変更による学習漏れを防ぐ研修に多数(11名)参加の上実施できた。 ・英語検定料の一部補助を実施する事で、生徒の英語力や学習意欲の向上させることができた。年々受験者が増加していることと、受験等級が上級化している。 			達成度	
				30年度 99名 元年度115名 2年度162名(殿田中26名)	
				令和2年度決算額	
		3,657,790円			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から、中学校においては新学習指導要領の全面実施となる。中学校の英語力の高度化につなげる取り組みを行う。 				
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等			
意見内容	教員研修が充実し、生徒の英検受験者も増加している。これまで当市において先進的に積み上げられてきた英語教育、ALT配置の経験を、新学習指導要領実施に活かしていただきたい。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A (計画どおり又は計画以上の成果が得られた) B (課題は残しながらも概ね目標は達成できた) C (課題を残し、目標も充分達成できなかった) D (検討段階に止まり具体の成果はなかった)			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	21	令和2年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業		(2) 適応指導教室の運営		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 ユニバーサルデザイン環境の構築に努める			
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 様々な理由で登校できない状態または、その傾向にある児童生徒の居場所をつくり、相談、適応指導を通して集団生活への適応、社会的自立を目指す。 				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 個別の教育的ニーズに対応できる教育機会を確保し、個別指導や支援環境を整備する。 通室生のアセスメントを行い、児童生徒一人ひとりの特性に適した支援内容を充実する。 支援会議を通して、見立てと支援の方向性を共有しながら学校と協働して支援を進める。 市長部局等との連携による支援のネットワークを構築する。 キントーン、支援会議、月例報告を活用して学校との連携を図る。 			達成指標	
				<ul style="list-style-type: none"> 通室生の見立てと適切な支援について、学校との定期的な支援会議を中心に共有し、通室生の変容をまとめる。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の一つとして通室生が活用している。 教室スタッフ間において、見立てと支援の連動が確立しつつある。 通室生の見立てと適切な支援について、学校との定期的な支援会議を中心に共有することを通して、本教室の役割が学校に少しずつ浸透するとともに、連携した支援が進み、通室生の自立に向けた変容が見られた。 通室生が7名から11名に増加したことにより、本教室への教育的ニーズを反映した指導支援や運営、本市の不登校児童生徒への支援の在り方についての協議の必要性という、次期の課題が明らかになった。 キントーンの意義を理解し、活用する学校が増えた。 			令和2年度予算額	
				6,272,000円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教室内においては、常に変化する通室生のアセスメントとより適切な支援ができるスキルの向上と運営体制を構築する。 より機能的効果的な支援につなげるために、学校と協働したアセスメントと支援を進める。 各校とともに協議研修の機会を設け、本市の不登校児童生徒への支援の在り方についての議論を踏まえ、指導支援の方向性を共有し、それぞれの役割を明確にする。 キントーンの使用率、学校からのフィードバックを増やしていきたい。 			達成度	
				<ul style="list-style-type: none"> アセスメントを軸にした学校との連携等により、通室開始や登校へとつながるなど、個々のペースにおいて社会的自立に向けた通室生の変容が見られた。 	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	不登校の児童生徒数は年々増加しているため、適応指導教室の役割は重要である。今年度は、スタッフによるアセスメントの充実、学校との連携、市長部局との連携が行われ、多様な支援者の協力体制が組織化されはじめた点がとくに評価される。				
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	A				

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	22	令和2年度重点実践項目	5. ダイバーシティ教育の推進		
点検・評価対象とする事務事業		(3) 心のバリアフリー推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 バリアフリー意識の啓発・浸透に努める			
事業目的	2年間取り組んだ「心のバリアフリー」事業の成果を基に、コロナ禍における限られた条件において形式を替えて「育ち合う子らの集い」作品展を実施し、互いの「違い」を認め、「同じ」を感じるといふ「心のバリアフリー」意識の涵養を図る。				
事業内容	コロナ禍により従来の形はとれなくても、昨年度までの取り組みを活かし、各中学校ブロックで内容を検討し「育ち合う子らの集い」作品展を開催する。			達成指標	
				「育ち合う子らの集い」作品展を通して、児童生徒が、「互いの『違い』を認め、『同じ』を感じた」ことが読み取れる言動や感想文に表すことができたか。（各ブロック評価より）	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各ブロックの実行委員会が主体となり、保育所、幼稚園、小中学校等がともに協議し、開催することにより、「心のバリアフリー」の目指す方向性を共有しながら進めることができた。 ・作品展では、各校園の実情に応じて創意工夫があり、特に、特別支援学級の児童生徒が作品展の看板等作成するなど、具体的な活躍の場となった。 ・作品展としたことで、例年より多くの子どもたちが参加することができた。 ・実施のねらいについての議論が、作品展を価値づけた。 			令和2年度予算額	
				260,000円	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会への支援学校の参加があると、開催を通して、多様な子どもたちの状況理解や支援学校との協働性を保育者や指導者自身がより学ぶことができる。 ・見通しを持って計画が立てられるように、来年度の取り組みの方向性を概ね決定しておく。 			達成度	
				「育ち合う子らの集い」作品展を通して、児童生徒が、「互いの『違い』を認め、『同じ』を感じた」ことが読み取れる言動や感想文に表すことができた。	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	「心のバリアフリー推進事業」は意義のある事業である。本年度は実行委員会が機能してこの事業の意義をふりかえり、作品展を開催してより広く周知できた点が評価される。引き続きこの事業に多くの子どもたちが関心を持ち、参加できる方法が期待される。				
内部評価	A		※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A		A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	23	令和2年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(1) 校種間連携推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 異年齢で学びや交流の場を広げる			
事業目的	中学校ブロックを単位とした校種間連携体制の下で進める研究・研修活動を通して、子どもの発達理解・教育内容を深め、授業力・保育力の向上を図る。				
事業内容	授業を含む一斉研修会2回（6月・11月）：1回実施（11月） 夏季研修会：園部中B（同和教育）八木中B（地域道徳）殿田中学校（地域道徳）美山中B（美山学フィールドワーク） 府・市の教育実践指定事業と一体となったブロック研究活動 （園部中学校ブロック：南丹教育局指定京都丹波の教育推進事業：園部中学校教育研究発表会 八木中学校ブロック：南丹教育局指定京都丹波の教育推進事業：地域道徳推進事業 殿田中学校ブロック：府指定学びの深化プロジェクト実施校） 4ブロック教育実践報告会			達成指標	
				年間1回の研究会及び夏季研究会を開催する。「校種間連携の視点を生かした指導ができています」について代表校長会で確認する。	
成果	保・幼・小・中連携事業においては、中学校ブロックを単位として、全小学校・中学校・幼稚園及び保育所による校種を越えた交流・研究事業が展開できたことにより、就学前から義務教育9年間を見通した連携と研究が深まり、子どもの理解と学びの姿勢づくり・学力向上に繋がってきている。 目指す姿に向けて、幼少中で一つの取り組みを行うことができたブロックもあった。			達成度	
				コロナ禍において、各ブロックともブロックの教育課題、特色を踏まえ研究活動を推進し、校種間の連携を深めた。	
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
課題	ブロックで、地域で育てる子ども像を共有し、地域道徳の取組を推進する。小学校が作成する「スタートプログラム」と就学前教育からの「アプローチプログラム」をさらに見直し、段差のない接続を図る。				
意見内容	園部、八木、殿田、美山それぞれのブロックの活動に特色があり、9年間を見通した連携と研究が進んでいることは評価できる。 地域道徳につながる具体的な事業であり、今後の展開が期待される。 また、連携の理念として、助け合う子どもたちの「自己肯定感・有用感の育成」が基本に置かれている点が素晴らしい。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり			
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	24	令和2年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業		(2) 子どものための地域連携事業 (放課後子供教室推進事業)		担当課 社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け		実践の方向性 地域における子どもの居場所を充実させる		
事業目的	学校や家庭ではない、地域における子供の居場所を作り、地域社会が子どもと関われる場、子どもが地域社会にかかわれる場を充実させます。			
事業内容	平日の放課後や学校休業日を活用し、地域が中心となって子どもの居場所づくり、地域交流を行う。		達成指標	
			放課後児童クラブと連携した全小学校区での実施。	
			令和2年度予算額	
		4,827,000円		
成果	摩気高山教室（国語、算数、理科、英語学習、社会見学、体験講座等）、神吉教室（太鼓活動）、大野教室（太鼓活動）が実施できた。（昨年度：3地区6教室で実施）		達成度	
			【放課後】園部地区1ヶ所（摩気高山教室）八木地区1ヶ所（神吉教室）美山地区1ヶ所（大野教室）で実施できた。園部地区では児童クラブと連携した取り組みができた。	
			令和2年度決算額	
		4,446,930円		
課題	実施箇所数としては昨年度と比べ減少した。長期的に持続可能な居場所づくりを、人材や支援体制面で考えていく必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育課事業報告	
意見内容	放課後子供教室推進事業は、コミュニティスクール、地域学校協働活動、地域道德にも関連する重要な取り組みであるが、継続的实施には実施協力者、学校との連携、子どもたちの参加率の面で容易ではないと考えられる。太鼓教室といった地域文化にかかわるテーマ性があると継続しやすいのではないかと。また、日常的な学習支援についてもニーズはあるものと思われる。			
内部評価	B	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		
総合評価	B			

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	25	令和2年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成	
点検・評価対象とする事務事業	(3) 子どものための地域連携事業 (地域学校協働活動推進事業)		担当課	社会教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉 における位置付け	実践の方向性			
	子どもが地域で活躍できる場を創出する			
事業目的	子どもが地域社会の一員として、役割を担い活躍・貢献することで、自己肯定感や自己有用感を実感できる機械や場を創出します。			
事業内容	『目指す子ども像』を共有し、その目的を達成するために多様な活動を実施する。豊富な技術や知識を持つ地域人材の活用により、学校の教育活動を支援する。植栽整備、図書整理、クラブ活動支援、学習支援等行う。 【地域学校協働活動推進事業】		達成指標	
			全校実施と、学習支援（未来塾）の全中学校の実施。	
			令和2年度予算額	
		4,827,000円		
成果	小中学校11校に地域学校協働活動推進員を配置することができている。推進員の交流の場としてオンライン交流会を実施することができた。また、学校運営協議会で共有できた『目指す子ども像』実現のため、学校と地域学校協働活動推進員と連携し、地域資源・地域人材を活用した取り組みが進められた。今までから取り組んでいる花植え、図書整理等、クラブ活動支援、家庭課学習支援、見守り活動、学習支援（地域未来塾）等の活動についても実施できた。		達成度	
			小中学校11校で推進員の配置及び活動実施できた。学習支援（未来塾）では3中学校で実施できた。	
			令和元年度決算額	
		4,446,930円		
課題	地域学校協働活動推進員が配置できたことで、学校教職員と連携していく必要があるため、学校内での地域学校協働活動推進員の存在と活用について認識を深めていく必要がある。学校教職員と連携する中で、今までと同じものばかりでなく一歩進んだ活動を展開する必要がある。			
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無	有	意見聴取に際しての提示資料等	令和2年度社会教育課事業報告	
意見内容	地域学校協働活動推進事業は、国を挙げて注力されている取り組みである。南丹市では早期に地域学校協働活動推進員が配置されたことで、その組織化はなされている。今後は推進員の活動が重要であることから、各校、各地区推進員のネットワーク構築も有効ではないか。また、「地域道徳」という大きな目標を活動の中心に置くことで、多くの協力者の意思統一ができ、モチベーションが維持されやすいと考える。			
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり		
総合評価	A	A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）		

令和3年度南丹市教育委員会の点検・評価表（令和2年度対象）

項目番号	26	令和2年度重点実践項目	6. 自己肯定感・有用感の育成		
点検・評価対象とする事務事業		(4) コミュニティ・スクール推進事業		担当課	学校教育課
〈南丹市教育振興基本計画〉における位置付け		実践の方向性 地域人材が学校で活躍できる場を創出する			
事業目的	コミュニティ・スクールを核に学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し、学校教育の充実と地域の活性化を図る。				
事業内容	既に導入されている小学校に続き、中学校にもコミュニティスクールを導入した。学校運営協議会及び熟議を通じて、目指す子ども像を共有し、それぞれの学校の状況、地域の状況に応じて協働活動を推進した。コミュニティ・スクールの趣旨を理解し、「地域とともにある学校づくり」を正しく進めるために、管理職、地域連携担当教職員、地域学校協働活動推進員等を対象とした研修会や交流会を行った。			達成指標	
				地域とともに教育目標が作成され、共有されているか。共有した教育目標に基づき地域と学校が協働活動を実施しているか。研修等を通じて、関係者の理解が進んだか。	
成果	コミュニティ・スクールを推進する上で中核となる管理職及び地域連携担当教職員に対する研修を通じてコミュニティスクールに対する理解が進んだ。研修から学んだ管理職が、学校教育推進上の課題を学校運営協議会を通じて地域と共有し、その課題解決に向けて共に考え、解決に向けて歩みだす学校が多く見受けられた。（年度末のCSマイスターとの個別相談会似て報告あり。）コロナ禍による臨時休業期間中にも、学校運営協議会が中心となって、児童・生徒支援につながる様々な協働活動を企画・実践できた。			令和2年度予算額	
				145,000円	
課題	学校において推進の中核となる管理職及び地域連携担当教職員のコミュニティ・スクールに対する理解は進んだが、それ以外の教職員については、学校により違いもあるが、これからという面が強い。また、実践面でも学校によってかなりの温度差がある。			達成度	
				全ての学校で、学校運営協議会の中で教育目標が検討され共有化が図られた。協働活動はすべての学校で実施されたが、質的には差がある。研修会等を通じた関係者の理解はアンケート結果から判断して進んだと考えられる。	
			令和2年度決算額		
			144,174円		
点検・評価アドバイザーの意見聴取の有無		有	意見聴取に際しての提示資料等		
意見内容	学校と地域の連携・協働が求められて久しいが、実際のところその必要性を理解する機会は乏しいようである。今年度は南丹市全市の小中学校がCSになり、教職員研修を通じて管理職、学校運営協議会での理解が進み、臨時休校中の協働活動にも反映された点が評価される。南丹市は地域と学校とのつながりが大きいため、今後は、地域道徳、熟議と連動させたコミュニティスクールの実践が期待される。				
内部評価	A	※内部評価・・・各事務事業担当課による評価を記載しています。 ※総合評価・・・内部評価と点検・評価アドバイザーの意見を参照とした教育委員会による評価を記載しています。 ※評価の判断基準は下記のとおり A（計画どおり又は計画以上の成果が得られた） B（課題は残しながらも概ね目標は達成できた） C（課題を残し、目標も充分達成できなかった） D（検討段階に止まり具体の成果はなかった）			
総合評価	A				